

高岡市総合計画第3次基本計画「まちづくり指標」進捗状況一覧表

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R1年度 実績値	R2年度 (目標値)	R2年度 実績値	R2年度 達成率	R3年度 (目標値)	R3年度 実績値	R3年度 達成率	平成29年度から令和3年度の5年間の総括 (評価・課題等)	今後の方向性(R4年度以降の取組み内容等)
1	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	①新たな事業活動の創出	創案件数(累計)	創業支援事業計画を基にする創案件数により算出(観光地及び中心市街地での開案件数を含む。)。5年間で600件の創案件数を目指す。	増加指標	件	159	149	311	561	480	732	152.5%	600	881	146.8%	高岡市創業支援等事業計画に基づき、創業者支援・事業継続ネットワークとの連携や各種創業セミナー、創業者支援事業補助金等を通して、創業機運の醸成を図るとともに、各支援機関との連携による切れ目のない支援により、目標を達成することができた。	コロナ禍の影響により、令和元年度から創案件数が減少傾向にあることから、起業を志す方へのアプローチや起業の視野を広げる伴走型支援の展開など、引き続き、各支援機関と連携し、サポート体制の充実を図りながら、継続した創業支援の取り組みを進めていく。
2	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	②地域産業の競争力強化	新技術・新製品 新サービス開発 件数(累計)	新分野開拓チャレンジ事業補助金の採択結果を基にフォローアップ。毎年20件の増加を目指す。	増加指標	件	7	11	14	15	80	41	51.3%	100	52	52.0%	全体の目標値の達成には至らなかったが、令和2年度以降は、コロナ禍における事業者支援として、制度の見直し、拡充等を図ったこともあり、新商品開発の支援件数は増加した。こうした時勢を捉えた事業者の取り組みについて支援できるよう、引き続き、企業訪問等を通じて事業者ニーズの把握に努めてまいりたい。	今後は、既存の商品開発支援に加え、急速な展開が想定されるSDGsやカーボンニュートラルなどに対応する事業者への支援などに取り組む。引き続き、企業訪問等を通して事業者ニーズの把握に努め、国や県の施策との連動性も考慮しながら、必要な支援を効果的に展開してまいりたい。
3	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	②地域産業の競争力強化	伝統産業の生産額	富山県の調査に基づく伝統的工芸品の生産額	維持指標	百万円/年	12,374	11,659	11,495	10,716	12,670	10,663	84.2%	12,670	9,850	77.7%	生産額は平成29年度から年々減少し、目標値の達成には至らなかったが、伝統産業における商品開発や販路開拓に取り組む事業者の取組みを支援してきた。今後の課題としては、海外ニーズを捉えた商品開発や、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた販路開拓が課題である。	引き続き各伝統産業の生産額の維持・増加を目標に、各組合及び事業者が、ポストコロナ社会においても商品開発や販路開拓等に積極的に取り組めるよう支援する。
4	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	③産業基盤の整備・企業立地の推進	企業団地への進出 企業数(累計)	企業団地への分譲実績を踏まえ、毎年2件の分譲を目指す。	増加指標	社	3	4	4	11	8	13	162.5%	10	13	130.0%	首都圏で開催する企業立地セミナーや企業訪問を行い、立地環境の優位性や立地に係る支援制度などを積極的にPRし、企業の進出意欲を喚起するなど、企業ニーズに応じた企業誘致を積極的に推進し、令和2年度、市内工業団地の全区画分譲完了となった。	市内工業団地の全区画分譲完了に伴い、令和3年度においては新たな産業団地の候補地を模索すべく適地調査を実施した。令和4年度は、この調査結果を基に、新たな企業立地の受け皿や開発等について幅広な検討するとともに、具体的な企業の立地意向調査を実施する。また、企業団地の開発だけでなく、市内の工場建設に適した用地への企業立地を推進するため、大都市圏で開催する企業立地セミナーや企業訪問にて本市の立地環境の優位性を積極的にPRしていく。企業の立地意向に応じた企業誘致を積極的に推進していく。
5	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	④中小・小規模企業の経営基盤強化	専門家派遣利用 企業数	高岡市中小企業支援専門家派遣事業補助金の交付実績を基に算出	維持指標	件/年	11	5	4	4	11	3	27.3%	11	2	18.2%	毎年、一定程度の活用実績があることから、専門家派遣に対する事業者ニーズはあるものと認識しているが、全体の目標値の達成には至らなかった。	今後は、事業者や支援機関等に、制度の積極的な周知を図るとともに、企業訪問等を通して制度を活用した事業者のフォローアップや、事業者ニーズの把握に努め、効果的な支援を展開してまいりたい。
6	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	④中小・小規模企業の経営基盤強化	伝統産業の技術・技法の継承者が 市内企業に定着 する人数(累計)	高岡市伝統工芸産業希少技術継承事業補助金の交付対象者(継承者)の人数。30年度まで毎年1人、31年度から2年に1人の増加を目指す。	増加指標	人	1	1	2	2	4	2	50.0%	5	2	40.0%	令和元年度から事業を中止したため、目標値にはどとかなかったものの、技術者が1名となっていた漆器彫刻技術を本事業で継承した。伝統産業界において人材確保、技術継承は喫緊の課題となっており、産官が連携して取り組む必要がある。	デザイン・工芸センターで実施している伝統工芸産業人材養成スクールにおいて技術者の養成を進めるとともに、若手技術者に奨励金を交付する「伝統産業希少技術継承者支援事業」(産業企画課)を県が実施する「伝統工芸『匠の技術』継承事業」と連動して実施し支援の充実を図る。
7	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	⑤雇用・勤労者福祉の充実	合同就職面接 における就職率	合同就職面接会に参加した求職者のうち採用された者の割合。直近3年の平均値を超える割合を維持する。	維持指標	%	12.2 (H29-H27の 平均値)	17.9	17.2	10.4	13.0	3.8	29.2%	13.0	9.3	71.5%	平成29年度～令和元年度までは、テクノームにて開催していたが、令和2年度以降は、コロナの影響もあり事業を見直し、年数回、御旅屋セリオでの小規模開催(参加企業:6社/回)に変更した。令和3年度の県内の有効求人倍率は、持ち直しの傾向がみられるものの、引き続き、雇用政策として取り組みを進めてまいりたい。	市内の主な産業である製造業のほか、人手不足の福祉事業所等へのマッチング事業として、ハローワークと連携し継続していく予定である。
8	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	①農業の持続的発展	担い手への農地 集積率	国の法律(農業経営基盤強化促進法)に基づき、担い手への農地集積を図る。	増加指標	%	61	62.7	63.6	61.4	74	62.5	84.5%	76	64.0	84.2%	優良農地の担い手への集積が進み、集積率の増加は鈍化傾向にあり、目標の達成には至らなかった。令和3年度より、狭小・変形田等条件不利な農地の改良費用を支援する事業を開始し、更なる集積推進に努めている。	引き続き農地中間管理事業や地域集積協力金交付事業の活用、人・農地プランを通じた集積の円滑化に向けた取り組み、新規就農者の確保や既存の担い手への支援強化を図っていく。
9	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	①農業の持続的発展	6次産業化の新規 事業取組者数(累計)	毎年1人の6次産業化新規事業取組者数の増加を目指す。	増加指標	人	2	2	3	4	4	4	100.0%	5	4	80.0%	目標を達成できなかったが、6次産業化の取組者数を増加することができた。令和元年度までは国・県・市の補助事業の活用等で毎年1人ずつ取組者が増加した。令和2年度以降は新規の取組者がいなかったのて、補助事業の制度の見直しをするなど6次産業化に取り組みややすい環境づくりが課題である。	令和3年度までに一定の6次産業化の新規取組者を増やすことができたため、引き続き6次産業化の支援を進めていく。これまで、6次産業化商品の開発に対して支援を進めてきたが、その商品が持続的に販売されることが大切であると考え、令和4年度以降は、6次産業化の取組の支援に加え、販路開拓の取組に対しても支援を進めていく。
10	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	②農山村の振興	都市農村交流事業 による交流人口	市で把握する交流イベント(里山交流センター、自然休養村等)の参加者数	維持指標	人/年	7,700	2,764	2,050	2,318	7,700	1,705	22.1%	7,700	1,810	23.5%	新型コロナウイルス感染症拡大対策のためイベント等をコロナ禍以前のように入行ない等により昨年に引き続き、目標値を大きく下回る状況が続く。	感染症対策に十分留意しながら交流できるイベントの開催を行っていく。令和4年度以降については、農業センター(指定管理者:インサイト)による交流イベントの増加やたかおか地産地消推進ネットワークによる収穫体験等により交流人口の増加を図っていく。
11	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	③林業の振興	里山の再整備面積	里山再生整備事業により実施した竹林等の整備面積の合計。毎年15ヘクタールの整備を目指す。	維持指標	ha/年	15	10	20	24	15	28	186.7%	15	29	193.3%	目標を達成しているが、里山の経済的価値の低下や、過疎化・高齢化の進行で活力が低下しているため、今後も事業を継続する必要がある。	今後も引き続き、地域ニーズ等を踏まえた事業のPRに努め、市民協働による森づくり活動への参加を支援する取り組みを推進する。
12	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	④水産業の振興	アユ等の稚魚放 流数	富山県の計画に基づく。	維持指標	kg/年	3,605	2,705	2,650	2,787	3,605	2,308	64.0%	3,605	2,200	61.0%	アユ稚魚の価格高騰(原油高、電気代の高騰、人件費の高騰等)のため、目標を達成することはできなかった。今後、補助事業の制度の見直しをするなどアユの稚魚放流量ではなく、回帰率の高い県内産稚魚の放流に取り組みややすい環境づくりとともに、稚魚の価格高騰に応じた目標値の設定が課題である。	アユ稚魚放流量は減少するものの、生存率が高く伝染病(冷水病)に強い県内産稚魚を放流することで回帰率の向上を図っていく。

No.	分野	めざますの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R1年度 実績値	R2年度 (目標値)	R2年度 実績値	R2年度 達成率	R3年度 (目標値)	R3年度 実績値	R3年度 達成率	平成29年度から令和3年度の5年間の総括 (評価・課題等)	今後の方向性(R4年度以降の取組み内容等)
13	歴史・文化	3 世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている	①文化財の保存・活用	歴史・文化施設入込者数(瑞龍寺、勝興寺・土蔵造りのまち資料館、銅物資料館、伏木気象資料館、古城公園、御車山会館)	全体として5年間で約3%の増加を目指す。	増加指標	人/年	1,175,372	1,124,660	1,149,436	1,109,437	1,205,000	850,871	70.6%	1,210,000	766,570	63.4%	勝興寺の保存修理工事が順次完了し、工芸展の開催などを行った。また、高岡駅前からのバス・万葉線フリー一切符の発売など民衆が定着している。新型コロナウイルスの影響によって目標を下回ったが、今後来場者も増加しているものと考えている。	勝興寺の国宝指定により高岡の歴史資産への注目度がさらに高まることから、引き続き、来館者の満足度向上を目指し、市内の歴史・文化資産を分かりやすく伝えるとともに、地域の宝としての意識醸成を図っていく。
14	歴史・文化	3 世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている	②歴史の風貌の保全・活用	建築物等の修景実績件数(累計)	景観形成重点地区内及び住民協定区内の修景実績件数。毎年3件の増加を目指す。	増加指標	件	3	4	7	10	12	10	83.3%	15	10	66.7%	計画期間前半は目標値を達成していたが後半では基準の厘直しやコロナの影響もあり、相談には訪れるが、実施に至らなかった。	積極的な修景行為を行っていただけるよう、修景補助金の制度などを再度知ってもらい、修景補助の促進につなげたい。
15	歴史・文化	4 暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている	①地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成	「TAKAOKA まちも、ものづくりも、ライバルはご先祖様。」文化創造都市HPアクセス数	紙ベースでのPRの実施	増加指標	件/年	H28年度開始	25,134	26,001	29,979	28,000	25,000	89.3%	30,000	30,960	103.2%	展覧会・イベント等を紹介するニュース記事や、高岡で活躍する方・高岡に関わる方へのインタビュー記事など、読みごたえのある記事を定期的に更新し、ページ構成の改善を行った。また、SNSも活用してウェブサイトの更新と連動した周知をすることで、アクセス数を増加させ、目標値を達成した。	引き続き、ウェブサイトの定期的な記事更新とSNSを活用したPRにより、文化創造都市高岡のPRを推進していく。
16	歴史・文化	4 暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている	①地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成	高岡市万葉歴史館の入館者数	毎年約1,000人の増加を目指す。	増加指標	人/年	24,290	23,783	22,736	63,336	29,000	12,385	42.7%	30,000	12,550	41.8%	万葉集を典拠とする令和への改元を追い風に、令和元年度には入館者数が増えたものの、新型コロナウイルス感染拡大により令和2、令和3年度は大幅に減少した。コロナ禍における入館者数確保が課題となっている。	令和2～令和3年度にかけて実施した万葉歴史館展示室のリニューアルにより、展示内容がこれまで以上に充実しているため、学校などの団体客や万葉に興味のある個人客に対してのPRに引き続き取り組む。
17	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの方が訪れるようになっている	①観光資源の発掘と保存・活用	高岡市の観光客入込数	各観光地及びイベントにおける入込数の合計値	増加指標	万人/年	380	377	385	371	450	183	40.7%	450	183	40.7%	令和2年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が大きく、目標値を大幅に下回ったが、イベントのリモート開催やSNS配達の強化といった将来に向けた新たな取り組みも進んだと考えている。	今後は、徐々にイベントの再開や観光需要の回復が見込まれることから、高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の造成、観光プロモーションに取り組んでいく。
18	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの方が訪れるようになっている	①観光資源の発掘と保存・活用	着地型旅行商品の参加者数	市内で着地型商品を取り扱う事業者への照会 毎年100人の増加を目指す	増加指標	人/年	2,067	9,092	7,481	3,434	3,800	2,011	52.9%	3,900	3,108	79.7%	令和2年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり目標値には届かなかったが、ものづくり体験や食事クーポンなど新しく造成した商品に一定の手ごたえがあったと考えている。	今後は、徐々にイベントの再開や観光需要の回復が見込まれることから、高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の造成、観光プロモーションに取り組んでいく。
19	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの方が訪れるようになっている	②広域観光の推進	旅行プログラムの販売人数	造成した旅行商品の購入者数(実売数) 毎年1,000人の維持を目指す。	維持指標	人/年	-	937	1,271	1,346	1,000	1,147	114.7%	1,000	2,137	213.7%	ものづくり体験や食事クーポンなど新しく造成した商品に一定の手ごたえがあったと考えている。	今後は、徐々にイベントの再開や観光需要の回復が見込まれることから、高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の造成、観光プロモーションに取り組んでいく。
20	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの方が訪れるようになっている	③イメージアップ・誘致活動の強化	観光ボランティアの利用者数	毎年1,000人の増加を目指す	増加指標	人	25,055 (H25-H27の平均値)	24,528	29,861	23,023	29,000	4,481	15.5%	30,000	3,238	10.8%	新型コロナウイルスの感染拡大により、移動自粛、大都市圏からの団体旅行が激減したこともあり、利用者数が減少した。	引き続き、高岡の発信に努め、誘客及びガイド利用に繋げる。
21	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの方が訪れるようになっている	③イメージアップ・誘致活動の強化	高岡関連PR記事等の掲載件数	雑誌、新聞、テレビ等で掲載された件数 毎年90件の掲載を目指す。	維持指標	件/年	85 (H25-H27の平均値)	308	277	220	90	157	174.4%	90	165	183.3%	新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度以降、イベント等の中止が相次ぎ、掲載件数は減少したが、リモートなど非対面形式でも開催可能なイベントや講座のPRを行った。	SNS等の活用や首都圏向けへのプレスリリース、高岡ふるさと応援隊への情報配信などを通じて、全国へ向けて市の魅力をPRする。
22	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの方が訪れるようになっている	④国内・国外交流の推進	コンベンション誘致件数	各種団体や学会の全国大会・ブロック大会・スポーツ大会の合計値 3件の増加を目指す。	増加指標	件/年	17	20	27	16	20	11	55.0%	20	12	60.0%	令和2年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が大きく、目標値を下回ったが、スポーツ大会や会場の誘致に一定の手ごたえがあったと考えている。	今後は、徐々にイベントの再開や観光需要の回復が見込まれることから、スポーツ大会や会場の誘致に関係機関とも連携して取り組んでいく。
23	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの方が訪れるようになっている	⑤インバウンドの推進	◎外国人宿泊者数	市内宿泊施設の宿泊した外国人の合計値(国の算出方法に準拠)	増加指標	人/年	8,823	8,522	10,511	11,394	9,000	2,414	26.8%	9,000	1,714	19.0%	令和2年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、目標値を大幅に下回った。	国内外の社会情勢を注視しながら、高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の造成、観光プロモーションに取り組んでいく。
24	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	①商業・サービス業の振興	中心商店街・観光地周辺における新規開業店舗数	中心商店街・観光地における開業支援件数(10件/年)※累計	増加指標	件	H28年度開始	14	26	40	40	57	142.5%	50	71	142.0%	各年度目標を超える新規開業となった。このことから、当支援は中心商店街、観光地周辺のにぎわいに効果をもたらしていると考えられる。	令和4年度以降も、中心市街地や観光地における新規開業店舗数に直接的に寄与する事業として、引き続き支援を行う。
25	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	②中心市街地活性化の推進	中心市街地・観光地周辺における歩行者通行量(1日あたり)	高岡駅前(エディテック)、末広町(東)、末広町(西)、御旅屋通り、大仏前、山町筋観光駐車場前の6地点の平日、休日の平均値の合計(毎年10月調査)	増加指標	人/日	16,670	18,229	17,517	14,425	17,560	10,149	57.8%	17,670	10,898	61.7%	令和2、3年度は目標値を大きく下回る結果となった。これは新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外出を控える人が増加したことが大きな原因だと考えられる。	市街地観光地における人通りを増加させるため、リノベーション街づくり事業の進展や特徴のある店舗等に対する開業支援を行い、魅力あるまちづくりを目指す。また日常的な通行量も増やすためまちなか住居やオフィスの誘導、開業支援に注力していく。
26	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	③市街地の整備	市街地整備区域内の居住人口	末広西地区住宅戸数84×人数2	増加指標	人	-	0	196	196	168	186	110.7%	168	173	103.0%	住民票ベースにおいて、居住人口は減少しているが、子どもの独立や転勤による異動が主であり、世帯数の増減はほとんどない。	整備事業完了
27	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	④住宅・宅地の整備	まちなか居住推進総合対策事業に伴う定住人数	5年間で300人の増加を目指す。 (毎年60人ずつの増加)	維持指標	人/年	60 (H25-H27の平均値)	67	86	50	60	39	65.0%	60	83	138.3%	各年度における実績値にはばらつきはあるものの、5年間の平均値としては目標を達成した。今後とも、制度の利用が促進されるよう周知等に努める必要がある。	引き続き、支援事業の周知を図り、まちなか区域の居住促進を行う。
28	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	④住宅・宅地の整備	老朽危険空家除却支援件数	老朽危険空家の解体を行う者への補助件数。 実績を積み上げながらH33には8件の補助を目指す。	増加指標	件/年	5	13	11	8	7	5	71.4%	8	10	125.0%	各年度における実績値にはばらつきはあるものの、5年間で目標の総数を達成した。除却の相談から除却するまでには一定の期間を要することから、空き家所有者等への指導等を継続的に行い、除却が促進されるよう努める必要がある。	空き家対策の業務を通して、把握した老朽危険空家について、除却を促進し、まちの整備に資する。
29	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	⑤良好な都市景観の創出	違反屋外広告物等の是正件数	違反屋外広告物及び既存不適格広告物に対して指導等し、是正された件数の確認をする。	増加指標	件/年	4	10	11	15	10	30	300.0%	10	10	100.0%	事業者の方々の理解を得られ、目標を超える是正につながった。	これからも屋外広告物への理解を得られるよう指導していく。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R1年度 実績値	R2年度 (目標値)	R2年度 実績値	R2年度 達成率	R3年度 (目標値)	R3年度 実績値	R3年度 達成率	平成29年度から令和3年度の5年間の総括 (評価・課題等)	今後の方向性(R4年度以降の取組み内容等)
30	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	①高岡駅・新高岡駅の周辺整備	公共交通乗車人数(JR西日本、あいの風とやま鉄道、万葉線、路線バス、コミュニティバス)	各交通事業者公表値より	維持指標	人/日	25,319	24,605	24,445	23,762	25,540	18,308	71.7%	25,430	19,119	75.2%	現在、JRや万葉線、路線バスといった骨格的公共交通の維持に努めながら、これらと地域とを市民協働型地域交通システムで繋ぐことで市域全体の利便性を高めよう取り組んでおり、各地域で動きが出てきたところ。しかし、モータリゼーションの進展と人口減少の影響に加え、併せて新型コロナウイルス感染症の影響により公共交通利用者が落ち込んだことから目標が達成できていない。	市民協働型地域交通システムの導入を進め、骨格的公共交通へ繋げる仕組みを構築するとともに、マイカーから公共交通への転換を促すモビリティマネジメントに取り組み、目標が達成できるよう令和4年度以降も引き続き取り組んでいく。
31	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	②高速道路網・幹線道路網・地域公共交通体系の整備	公共交通人口カパー率	H27国調人口データを基に算出(総合交通戦略策定時データ参照)タクシー除く	増加指標	%	79.9	74.8	77.2	-	81.8	-	#VALUE!	82.2	74.5	90.6%	バス利用者の減少によってバス路線の統廃合が行われたことにより、公共交通人口カパー率が減少している。現在の市民の移動の中心は自家用車であり、バスに限らず公共交通利用者が減少している。鉄軌道やバス路線といった骨格的公共交通を維持するとともに、地域の特性に応じた市民協働型地域交通システムの導入などによって持続可能な公共交通体系を構築していく必要がある。 【令和3年度実績は、平成27年度国調を基に算出】	現在、鉄軌道やバス路線といった骨格的公共交通の維持・強化に努めながら、住民が主体となった市民協働型地域交通システムの導入を進めて骨格的公共交通を補完する高岡型コミュニティ交通の定着に取り組んでいる。市街地や骨格的公共交通の沿線から離れている地域において、市民協働型地域交通システムの導入を進めていくことで、公共交通人口カパー率の増加に取り組む。
32	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	②高速道路網・幹線道路網・地域公共交通体系の整備	都市計画道路整備率	都市計画道路延長に対する改良済延長の割合	増加指標	%	77.1	77.7	77.8	78.4	79.6	81.6	102.5%	80.1	82.3	102.7%	着実に事業を進捗させることで、目標値を達成できた。	引き続き、国・県に対し事業の促進を働きかけていくとともに、市においても事業を推進していく。
33	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	③港湾の整備・活用	船舶の寄港数(クルーズ客船・RORO船)	毎年10〜13件の寄港を目指す。	増加指標	隻/年	7	7	5	2	12	0	0.0%	13	0	0.0%	平成29年度をピークにクルーズ船の寄港数は減少しており、令和2年度、3年度は新型コロナウイルスの影響により寄港が無かった。原因として、金沢港と背後観光地が重複することによる競合や、コロナ禍での寄港は船籍港のある太平洋側の港を基点とした短い日数でのクルーズツアーが増加していると考えられる。	感染症対策のガイドラインを徹底した受け入れを実施し、コロナ禍でも安全に楽しめる魅力的な寄港地観光プランの提供に努める。
34	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	④広域連携の推進	「県西部域」都市圏ビジョン記載連携事業の実施数	H33年度までに30事業の実施を目指す。	増加指標	事業	H28年度開始	24	26	30	30	30	100.0%	30	31	103.3%	計画期間を通じて、連携事業の進行管理や新規事業案の具体化、有識者からの意見聴取等を行った。 令和3年度は、第2期都市圏ビジョン(R3〜R7)に記載の全31事業のうち、「地図情報システムデジタル航空写真共同撮影事業」の撮影年度には該当しなかったものの、翌令和4年度の撮影に向けて関係市間で協議を行った。 また、第1期都市圏ビジョン(H28〜R2)の総括を行った。	第2期都市圏ビジョンの進行管理を行うとともに、コロナ禍の影響を受けた令和2〜3年度実績を分析し、第2期都市圏ビジョンの目標値について、必要に応じて再検討する。
35	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	①教育・保育の一体的提供の推進とサービスの充実	認定こども園の設置数	5年間で10園を認定こども園に移行していく。	増加指標	園	4	9	11	16	12	19	158.3%	14	20	142.9%	私立の保育所及び幼稚園からの認定こども園への移行が順調に進み、目標値を達成している。教育・保育の一体的提供と保育サービスの充実を図るために、今後も認定こども園への移行を推進していく。	引き続き、認定こども園への移行を推進していく。
36	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	①教育・保育の一体的提供の推進とサービスの充実	病児保育(病児対応型及び病後児対応型)事業実施施設数	保育園または病院で1か所増	増加指標	施設	3	3	3	5	4	5	125.0%	4	5	125.0%	病児保育(病児対応型及び病後児対応型)事業実施施設数は、5年間で2施設増加し合計で5施設となり、目標値を達成している。今後も、働く保護者のニーズに対応した保育サービスの充実に取り組んでいく。	利用者ニーズを捉え、事業を継続していく。
37	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	②新たな子育て情報提供システムの構築	スマートフォンを用いた子育て情報提供アプリの登録者数	年間妊娠・出生件数約1,300件を参考として、H33までにその父母の8割の利用登録を目指す。	増加指標	人	H28年度開始	1,403	1,850	2,233	8,500	782 (2,561)	#VALUE!	9,000	1,626	18.1%	令和3年2月に母子手帳アプリ「母子モ」を活用した「ねねったかおか」の展開に切り替えたことにより、利便性が向上した。 今後、より利便性の高いものとするよう、まずは利用者を増やし必要な機能等の検証を行う必要がある。 現在、利用者を増やすため、母子健康手帳交付時や児童福祉施設、窓口でのアプリダウンロード案内を行っているが、更なる啓発に努める必要がある。	より効果のある啓発方法を検討する。 機能追加等による、利便性を高める方法を検討する。
38	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	②新たな子育て情報提供システムの構築	子育てに関する相談対応件数	子育て支援センター等にて対応した相談件数。	維持指標	件/年	4,664	5,437	5,280	4,959	4,700	3,842	81.7%	4,700	5,189	110.4%	利用者数の増減に伴い、相談件数も増減している。毎月400件前後の相談があり、今後も対応できる体制づくりを行っている。	引き続き、保護者の様々な相談に対応できるよう、相談者の質向上を図る。
39	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	③安心して妊娠・出産・子育てができる体制の充実	子育てへの不安・負担度	毎年度、支援の実感度を評価するアンケートを実施 H25調査の41.7%を参考値として設定。	減少指標	%	41.7	38.6	50.7	43.3	29.0	51.4	22.8%	28.0	50.2	20.7%	第2期高岡市子ども子育て支援事業計画の計画期間に入り、アンケート調査の手法を見直していることから、基準値との比較は困難だが、引き続き、子育て世代の不安・負担軽減のための取り組みを進める。	子育て世代の経済的負担軽減のため、引き続き、幼児教育・保育の無償化やこども医療費の助成等を実施するとともに、心身に障害のある子どもなどすべての子どもが健やかに成長できる環境づくりに取り組む。
40	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	③安心して妊娠・出産・子育てができる体制の充実	生後3か月までの乳児のいる家庭訪問率	訪問件数/対象家庭数×100 新生児訪問やこにちは赤ちゃん	維持指標	%	99.7	99.9	99.7	99.4	100	99.8	99.8%	100	96.8	96.8%	保護者と連絡がとれないケース等もあり訪問を100%実施することができなかったが、3か月児健診にてほぼ100%状況を把握し、支援の必要な方については対応することができた。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、電話にて対応しているケースもあり、育児状況を把握しきれない問題が潜在している可能性が考えられる。	引き続き、対象者全員に訪問もしくは電話にて状況を確認し、支援が必要な人をとりこぼさないよう対応する。また、医療機関や関係機関、他市と連携を図り適切な支援を行う。
41	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	④地域の子育て力の応援	子育て支援の実感度	毎年度、支援の実感度を評価するアンケートを実施。 H25調査の43.3%を参考値として設定。	増加指標	%	43.3	55.7	37.8	49.9	51.0	43.2	84.7%	52.0	47.3	91.0%	第2期高岡市子ども子育て支援事業計画の計画期間に入り、アンケート調査の手法を見直していることから、基準値との比較は困難だが、引き続き、子どもが地域の中で育つ環境づくりに進める。	子育て世代が、仕事と子育ての両立ができるよう、放課後児童クラブやファミリー・サポート・センター等の充実に取り組むとともに、保護者が気軽に集い、相談できる環境づくりに取り組む。
42	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	④地域の子育て力の応援	平日の19時までの開所が可能な放課後児童クラブの数	クラブ運営規程にて、「19時までの開所」を規定しているクラブ数を基に設定。	増加指標	クラブ	2	2	2	3	9	4	44.4%	10	4	40.0%	支援員及び補助員が不足しており、目標は達成できなかったが、令和2年度より民設クラブが開設されたことにより、19時までの開所が可能なクラブが増加した。	引き続き、支援員等の確保に努め、長時間開設可能な受入体制を整えるとともに、民設クラブの開設を支援し、利便性の向上に努める。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R1年度 実績値	R2年度 (目標値)	R2年度 実績値	R2年度 達成率	R3年度 (目標値)	R3年度 実績値	R3年度 達成率	平成29年度から令和3年度の5年間の総括 (評価・課題等)	今後の方向性(R4年度以降の取組み内容等)
43	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	①豊かな学力・ 豊かな心・健や かな体をはくむ 教育の推進	教員研修評価ア ンケートにおける 満足率	研修会後の教員アンケート	増加指標	%	H28年度 開始	97	98.2	96.5	80	96.0	120.0%	80	97.9	122.4%	キャリアステージに応じた研修や、ICT活用に関する研修など、教員や社会のニーズに合った研修を企画し、実践的な指導力向上を目指した。 また、5年間を通して、目標値を達成していることから、今後も継続して教員が意欲的に取り組むことができる研修を企画していく。	外国人児童生徒や不登校児童生徒に対する支援の在り方について学ぶ研修を取り入れるなど、今後も教員や社会のニーズに応じた研修を企画し、教員の資質向上と専門的な力を高めていく。
44	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	①豊かな学力・ 豊かな心・健や かな体をはくむ 教育の推進	児童・生徒1人あ たりの学校図書貸 出冊数	月平均の児童・生徒の学校図書貸出冊数	増加指標	冊/月	H28年度 開始	3.9	3.9	3.6	4.0	4.1	102.5%	4.0	3.9	97.5%	令和3年度の目標値には、若干及ばなかった。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学級閉鎖や臨時休業等の措置が講じられる中、図書室の利用を控える児童生徒もあったと考えられる。換気や消毒、ソーシャル・ディスタンス確保の呼びかけ等の感染対策を講じながら、図書室開放を推進したことにより、大幅な減少には至らなかった。	引き続き、学校図書館における新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら、事業を推進する。中学校(義務教育学校後期課程)における貸出冊数が少ない状況がみられることから、学校司書研修会等を通して、学校図書館利用の推進を図り、貸出冊数の増加に取り組んでいく。
45	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	①豊かな学力・ 豊かな心・健や かな体をはくむ 教育の推進	学校給食に使用 する地場産食材 の品目	食育と地産地消を推進するため、地場産食材(青果物)品目数を26品目以上に設定	増加指標	品目	24	24	23	24	26	23	88.5%	26	23	88.5%	生産者が生産をとりやめた品目、出荷時期と学校給食での使用時期が合致しなかった品目。また、生育状況により確保できなかった品目があった中で、前年度に使用できなかった品目を復活させたり、また、一部の学校で新規品目を開拓したりして地道に増やしてきているため、大幅な減少には至らなかった。	農業生産課担当者やJA高岡と連絡を密に行い、学校給食で使用する品目や時期について情報を共有し、生産者の新規開拓についても検討する。生産量が少ない品目について、引き続き、一部の学校での使用を検討するなど可能な限り地場産食材を使用する。
46	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	②地域に開か れた特色ある 教育活動の充 実	英検3級以上を取 得している中学3 年生の割合(英検 3級以上相当の英 語力を有すると思 われる生徒を含 む)	英語教育実施状況調査による 5年で約100人の増加を目指す。(H27 市内中学3年生数(約1,500人×6%)÷ α)	増加指標	%	48	53	56.6	55.3	52	54	103.8%	54	53	98.1%	小・中学校の教員を対象に、英語・外国語活動指導研修会等を実施し、英語・外国語活動の授業の授業改善に取り組んだが、令和3年度は目標値の達成はできなかった。	今後も、教員が小中一貫教育を見据えた指導を意識し、学校訪問研修会等を通して、指導力向上を図る。 今後も引き続き、生徒の英語力向上に向けての方策を検討していく。
47	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	②地域に開か れた特色ある 教育活動の充 実	郷土に誇りをもつ 心を育むことがで きた児童生徒・教 員の割合(児童・ 生徒)	ものづくり・デザイン科学習後のアンケート 高水準である90%を維持	維持指標	児童・生徒 %	90	92.0	92.2	90.9	90	90.0	100.0%	90	91.0	101.1%	感染症対策を講じながら、実習や見学、ふるさと地域学習を進めた。作品を作ったり見たりするだけでなく、職人さんの苦労やすばらしさを身近に感じ、高岡の伝統工芸を誇りに思う児童生徒が非常に多い。	昨年度同様、感染症対策を講じながら学習を進める。 講師の負担軽減の面から、講師、児童生徒、教員等それぞれの意見を聞きながら、新たな学習形態等についても検討していく。
48	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	②地域に開か れた特色ある 教育活動の充 実	郷土に誇りをもつ 心を育むことがで きた児童生徒・教 員の割合(教員)	ものづくり・デザイン科学習後のアンケート 高水準である90%を維持	維持指標	教員 %	90	96.0	92.4	92.7	90	89.0	98.9%	90	98.0	108.9%	制作過程を体験できることは非常に価値がある。高岡の伝統について学ぶことができるのは非常に良いことであり、そのよき児童生徒が実感していると感じるなど、教育効果をあげる教員が多い。	講師の負担軽減の面から、講師、児童生徒、教員等それぞれの意見を聞きながら、新たな学習形態等についても検討していく。
49	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	③教育効果を 高める教育環 境の充実	余裕教室の活用 数	小学校の余裕教室で開設している放課後児童クラブ室の数 H33までに12室の増加を目指す。(41室で利用想定児童数を網羅予定)	増加指標	室	12	16	21	21	26	21	80.8%	26	20	76.9%	目標は達成できなかったが、余裕教室の活用を優先してきており、総体的には増加傾向。一方、学校の再編統合により、母体となる学校数が減少するなど、放課後児童育成クラブ室を取り巻く環境が変化することが見込まれる。	学校運営に支障がない限り、引き続き、余裕教室の活用を優先することし、子ども・子育て課と連携を図りながら、環境整備に努める。
50	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	④高等学校・高 等教育機関の 充実・連携	大学と連携した事 業への参加者数	高岡市と大学との協定等に基づいて実施する事業を抽出 100人の増加を目指す。	増加指標	人/年	260	448	350	396	360	332	92.2%	360	327	90.8%	令和元年度までは増加傾向であったが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、事業が中止になり目標未達成となった。オンライン開催に変更するなど、感染防止対策に努めている。	各大学と連携し、新たな連携事業の策定、事業のPRを引き続き行い、参加者数を増やしていく。
51	子育て・教育	10 いくつになっても興味のあることを気軽に学べている	①ライフステー ジに応じた生涯 学習の振興	生涯学習センター の利用者数	年間のホール、講座、コーナー利用者数	増加指標	人/年	254,131	238,017	268,144	256,290	259,000	110,534	42.7%	260,000	128,768	49.5%	利用者数について、平成29年度から令和元年度までは増加傾向であったが、令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、約半減となり目標未達となった。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、情勢に対応していきつつ、利用者数の維持、利用促進を進めていく。
52	子育て・教育	10 いくつになっても興味のあることを気軽に学べている	②未来を担う 世代の育成と 若者が主体と なるまちづくり の推進	土曜学習の実施 学校数	実績の積み上げを見ながら、5年間で5校区数の増加を目指す。	増加指標	校	8	14	15	16	17	12	70.6%	18	14	77.8%	平成29年度から令和元年度までは1年に1校区ずつ実施校区が増加していた。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、土曜学習の実施を見送る校区が目立った。	引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、土曜学習を実施する。
53	子育て・教育	11 いつでも気軽にスポーツを楽しんでいる	①生涯スポ ーツ活動の充 実	体育施設の利用 者数	スポーツ施設の利用促進のPRや市民ニーズに応じた施設整備、改修等により5年間で5%の増加を目指す。	増加指標	人/年	836,440	790,929	791,777	742,115	870,500	467,412	53.7%	878,850	504,148	57.4%	令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大幅な減少となり目標未達となった。感染症対策の周知徹底を図りながら、極力スポーツ活動が停滞しないよう努めた。	引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、気軽に利用できる環境づくりに向けていく。
54	子育て・教育	11 いつでも気軽にスポーツを楽しんでいる	②スポーツ施 設の充実と効 率的な活用	学校体育施設開 放の利用者数	5年間で5%の増加を目指す。	増加指標	人/年	341,340	322,600	322,771	291,932	358,800	208,406	58.1%	362,250	140,220	38.7%	令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大幅な減少となり目標未達となった。感染症対策の周知徹底を図りながら、極力スポーツ活動が停滞しないよう努めた。	引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、気軽に利用できる環境づくりに向けていく。
55	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	①地域福祉の 推進	福祉ボランティア 登録人数	高岡市ボランティアセンター登録人数。 毎年、12,000人維持を目指す。	維持指標	人/年	11,396	10,796	11,923	10,606	12,000	9,892	82.4%	12,000	9,766	81.4%	各年度とも目標値を達成していない。会員の高齢化による退会者数の増加や、新型コロナウイルス感染症拡大による活動機会の減少等がその要因として考えられる。	令和4新規事業(共助の基盤づくり事業)として、困ったときに身近に相談できる、助けてくれる人がいる地域づくりを進める(「テーマ別ボランティア」から「地縁型ボランティア」へ)
56	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	②障がい者 (児)福祉・自立 支援対策の充 実	障がい者相談支 援センター相談件 数	気軽に相談できる体制づくりを目指し、 毎年11,000件の維持を目指す。	維持指標	件/年	10,855	13,579	15,345	15,088	11,000	13,846	125.9%	11,000	15,432	140.3%	新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより、令和2年度中には相談件数の落ち込みが一時的に見られたが、令和3年度からは相談件数が例年並に戻った。	障がいのある人が必要な時に必要な支援が受けられるよう、障がい者相談支援事業所・障がい福祉サービス事業所・多分野の相談支援機関とネットワークを形成し、相談・支援体制の強化に努めている。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R1年度 実績値	R2年度 (目標値)	R2年度 実績値	R2年度 達成率	R3年度 (目標値)	R3年度 実績値	R3年度 達成率	平成29年度から令和3年度の5年間の総括 (評価・課題等)	今後の方向性(R4年度以降の取組み内容等)
57	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	②障がい者(児)福祉・自立支援対策の充実	年間新規就労者数	民間作業所・障がい者雇用支援事業団・特別支援学校から就労した人数。毎年50人を目指す。	増加指標	人/年	34	26	32	22	50	25	50.0%	50	27	54.0%	目標値の50人達成に向けて、就労支援部会等におけるネットワークによって障がい者雇用促進のための取組みを行っている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による雇用状況の落ち込みが一時的に見られたが、令和3年度から雇用状況が改善されつつある。	令和3年度に入ってから、雇用状況が改善されつつある。引き続き、ハローワークや特別支援学校などの関係機関と連携を取り、障害者雇用率向上に向けた施策を行っていく。
58	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	③高齢者福祉の充実	認知症サポーター養成数	養成講座の受講者数をH29～H31は年間1,500人、H32、H33は年1,000人を目指す。	増加指標	人	12,039	15,906	17,344	19,015	19,000	19,788	104.1%	20,000	20,606	103.0%	平成29年度～令和元年度においては、認知症サポーター養成数が毎年1,000人を超えていたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2年度、3年度は1,000人を下回った。今回は実績値が20,606人と目標値を超えて養成することができた。今年度は受講し、認知症に関する取組をしている民間事業所等を「たかおか認知症パートナー宣言事業所」として市のホームページ等で公表するとともに、連携して認知症バリアフリーなまちづくりを推進する。認知症サポーター養成講座の開催方法は、対面での実施であったため、キャラバンメイトがオンラインに慣れていない、オンライン環境が整備されていないなど課題がある。	引き続き、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症本人やその家族を応援し支える方々などを養成することを目的として認知症サポーター養成講座を実施していく。本年度を受講し、認知症に関する取組をしている民間事業所等を「たかおか認知症パートナー宣言事業所」として市のホームページ等で公表するとともに、連携して認知症バリアフリーなまちづくりを推進する。小学生向けの認知症サポーター養成講座を実施し、若年者への正しい理解と知識・接し方の普及を図る。
59	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	③高齢者福祉の充実	認知症高齢者等SOSダイヤルシステム登録者数(旧・保健SOSダイヤルシステム)	毎年20人の登録者を目指す。	増加指標	人	117	146	167	159	220	165	75.0%	250	137	54.8%	当初、認知症高齢者の増加に伴い認知症高齢者等SOSダイヤルシステムの登録者が増加すると見込んでいた。令和3年度に、SOSダイヤルシステム登録者を対象としたQRコードを用いた新事業開始に伴い、事業対象者の状況把握を行ったところ、死亡や入所により登録を削除した方が1名おり、令和3年度の新規登録者数43名を大きく上回った。引き続き、必要な方への事業周知を図る。	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所の個別支援を通じて必要な方への事業登録を進める。令和4年6月1日より、SOS緊急ダイヤルシステムの登録が加入条件となっている認知症の方を対象とした個人賠償責任保険事業を開始していることから、保険の普及と密接に合わせた本事業の周知啓発を進める。また、認知症サポーター養成講座等においても事業周知を図る。
60	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	③高齢者福祉の充実	介護予防日常生活総合事業における住民主体の通いの場の立ち上げ数	H33までに50か所の通いの場立ち上げを目指す。	増加指標	か所	20	47	90	100	50	93	186.0%	50	91	182.0%	平成30年度に目標値の50か所を大きく超え90か所の通いの場の設置ができた。しかし、令和元年度～令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で休止された会場もありやや減少した。	今後も継続して事業を進め、感染症対策を行いつつ、通いの場の増加を進める。
61	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	③高齢者福祉の充実	介護予防日常生活総合事業における住民主体の通いの場の一般介護予防事業の参加者数	H33までに50か所の通いの場立ち上げを目指す。	増加指標	人	62,500	63,179	72,571	71,413	69,000	27,696	40.1%	70,000	53,069	75.8%	徐々に参加者数は伸び、平成30、令和元年度には目標値の7万人を超えることができた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に減少したが、令和3年度は人数を分散して開催するなど工夫しながら再開継続する通いの場が増えられた。	自宅から歩いて行ける身近な会場に月2回以上通うことで、自身の健康寿命の延伸に繋がるとともに、地域の活性化にもつながる。今後も引き続き参加者数が増えるよう、感染症対策を行いつつ通いの場の周知を行う。
62	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	①生涯を通じた健康づくりの推進	健康寿命	市民の平均寿命から介護を要する平均期間(要介護2以上)を差し引いた期間。	増加指標	男・歳	78.03 (H26)	78.97	79.25	79.39	78.80	80.19	101.8%	79.00	79.62	100.8%	健康寿命は増減を繰り返しながら、延伸している。平成30年度に高岡市健康・栄養調査を実施し、1日の平均歩数の減少や、朝食を摂らない人の割合の増加、睡眠による休養が十分にとれていない人の割合が増加するなど、改善がみられていない項目を把握し、課題解決に向け、重点的に取り組むテーマを年度ごとに定め、関係機関・団体と連携し、事業を展開してきた。	令和4年度は、「高岡市健康・栄養調査」(市民アンケート)を実施し、市民の健康状態の把握を行い、今後の取り組み等関係機関・団体と協議しながら検討していく。令和5年度 次期高岡市健康増進計画策定・公表 令和6年度 次期高岡市健康増進計画スタート
63	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	①生涯を通じた健康づくりの推進	健康寿命	市民の平均寿命から介護を要する平均期間(要介護2以上)を差し引いた期間。	増加指標	女・歳	83.55 (H26)	83.44	84.09	84.89	83.91	84.19	100.3%	84.00	84.59	100.7%	健康寿命は増減を繰り返しながら、延伸している。平成30年度に高岡市健康・栄養調査を実施し、1日の平均歩数の減少や、朝食を摂らない人の割合の増加、睡眠による休養が十分にとれていない人の割合が増加するなど、改善がみられていない項目を把握し、課題解決に向け、重点的に取り組むテーマを年度ごとに定め、関係機関・団体と連携し、事業を展開してきた。	令和4年度は、「高岡市健康・栄養調査」(市民アンケート)を実施し、市民の健康状態の把握を行い、今後の取り組み等関係機関・団体と協議しながら検討していく。令和5年度 次期高岡市健康増進計画策定・公表 令和6年度 次期高岡市健康増進計画スタート
64	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	①生涯を通じた健康づくりの推進	国民健康保険特定健康診査受診者における高血糖有所見者の割合	国保データベース(KDB)システムのデータを活用した、特定健康診査受診者に対するHbA1c(ヘモグロビンエワンシール)5.6%以上の割合。	減少指標	%	77.6	77.3	74.4	78.4	71.9	77.9	91.7%	71.6	77.7	91.5%	本市の高血糖有所見者の割合は高い傾向にあり、目標の達成には至らなかった。国保加入者に占める65歳以上被保険者の割合は増加しており、加齢に伴い体内の糖分処理能力が低下することでHbA1cが増加するなどが要因であると考えられている。高血糖有所見者の割合が高いことに加え、メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合も増加していることが課題である。	今後も生活習慣病の早期発見のため、特定健康診査の受診率向上を図りつつ、有所見者に対する個別の保健指導に力を入れ、生活習慣病の早期改善、重症化予防に取り組む。
65	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	②医療体制・医療制度の充実	市民病院と地域医療機関等との患者の紹介率・逆紹介率(紹介率)	紹介率: $A \div (B - C) \times 100$ 逆紹介率: $D \div (B - C) \times 100$ A: 紹介患者の数、B: 初診患者の数、C: 休日夜間救急患者の数、D: 逆紹介患者の数	増加指標	紹介率(%)	31	41.5	63.5	68.5	50	70.6	141.2%	50	68.0	136.0%	開業医訪問をはじめとした地域医療機関との関係づくりに努め、5年間を通して目標値を達成。平成30以降は大幅に目標値を上回ることができた。一定の水率に達したため、この水準を維持又はさらに向上していくことが重要。	総合計画第4次基本計画及び高岡市民病院第V期中期経営計画では紹介率70%、逆紹介率100%を目標に設定しており、引き続き開業医訪問や医療連携懇話会などを通じて地域医療機関との連携強化に取り組む。
66	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	②医療体制・医療制度の充実	市民病院と地域医療機関等との患者の紹介率・逆紹介率(逆紹介率)	H33の目標値は、地域医療支援病院である厚生連高岡病院のH26実績並みの数値	増加指標	逆紹介率(%)	43	56.8	92.3	97.4	70	90.4	129.1%	70	96.2	137.4%	開業医訪問をはじめとした地域医療機関との関係づくりに努め、5年間を通して目標値を達成。平成30以降は大幅に目標値を上回ることができた。一定の水率に達したため、この水準を維持又はさらに向上していくことが重要。	総合計画第4次基本計画及び高岡市民病院第V期中期経営計画では紹介率70%、逆紹介率100%を目標に設定しており、引き続き開業医訪問や医療連携懇話会などを通じて地域医療機関との連携強化に取り組む。
67	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	①環境保全意識の高揚	住宅用太陽光発電の能力合計	H33には標準世帯の能力(4kw)の約2,000世帯相当を目指す。	増加指標	kw	5,138	6,191	6,653	7,099	7,500	7,293	97.2%	8,000	7,525	94.1%	発電した電気の自家消費を促すため、令和2年度から太陽光発電と蓄電池等を組み合わせたシステムのみを対象としている。目標値は概ね達成することができた。	令和4年度からはPPAに基づく太陽光発電システムを設置した個人にも補助し、従来の蓄電池付太陽光発電システムとあわせ、脱炭素の取り組みに貢献していく。
68	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	①環境保全意識の高揚	こどもエコクラブ数	幼稚園・保育園、認定こども園の全体の60%加入を目指す。	増加指標	園/年	21	28	32	32	31	33	106.5%	33	33	100.0%	目標値を達成することができた。今後も事業を継続する。	幼稚園・保育園への周知に努め、参加園を確保していく。

No.	分野	めざますまの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R1年度 実績値	R2年度 (目標値)	R2年度 実績値	R2年度 達成率	R3年度 (目標値)	R3年度 実績値	R3年度 達成率	平成29年度から令和3年度の5年間の総括 (評価・課題等)	今後の方向性(R4年度以降の取組み内容等)
69	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	②環境保全対策の充実	美化協定団体数	毎年1団体ずつの増加を目指す。	増加指標	団体	47	53	52	49	54	46	85.2%	55	46	83.6%	各協定団体の高齢化等による参加人数の減少により、事業継続が困難であるとの理由で団体数は減少し、目標値を達成することはできなかった。 市広報誌やホームページ等を活用することで、美化協定団体の活動状況や意義を市民に周知し、新規加盟団体の募集呼びかけを行っていく。	各美化協定団体の活動状況等を市ホームページ等に掲載するなどして、より効果的な広報活動を行い、美化協定の意義について、市民の理解と周知を進めていく。
70	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	②環境保全対策の充実	美化重点地区の美化活動参加者数	近年参加者数が減少傾向にある中、17,000人の維持を目指す	維持指標	人/年	16,912	16,800	15,545	14,965	17,000	5,491	32.3%	17,000	10,042	59.1%	近年の人口減少や少子高齢化に伴う参加者の高齢化等に加えて、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染拡大による活動自粛が重なり、活動参加者数は減少傾向となった。 市広報誌やホームページ等の活用により、清掃美化活動の啓蒙・啓発及び参加呼びかけを行っていく。	地域の高齢化や人口減少、併せて感染対策のため新たな生活様式に対応した清掃活動が求められることから、大規模な清掃活動から地元・地域主導の小規模単位での清掃活動に移行していく。今後、地元・地域主導の小規模な清掃活動への移行を促しながら、地域の活動を支援していく。
71	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	③ごみの減量化・資源化の推進	ごみの再生利用率	ごみの分別の徹底し、リサイクル率の維持に努める。	維持指標	%	21.0	21.2	21.3	21.1	21.0	20.6	98.1%	21.0	20.6	98.1%	概ね維持できている。燃えるごみに関するサーマルリサイクル(焼却熱を利用した発電)を加味すると、31.5%となり達成している。	引き続きごみの分別を徹底し、リサイクル率の維持・向上に努める。 また、新たな資源化について検討する。
72	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	③ごみの減量化・資源化の推進	ごみの排出量	ごみの発生抑制を推進し、ごみの減少を目指す。	減少指標	t	62,082	61,489	61,015	60,162	60,480	59,118	102.3%	60,130	58,632	102.5%	5年間目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	3R+Renewableに基づき、引き続きごみの減量化を推進する。
73	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	③ごみの減量化・資源化の推進	埋立ごみ搬入量	ごみの分別を徹底し、埋め立てごみの減少と焼却量の減少に努める。	減少指標	t	7,656	6,294	6,212	6,246	7,490	6,425	114.2%	7,455	6,262	116.0%	5年間目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	埋立ごみの減少と焼却量の削減を目指して、ごみの分別の周知・継続を徹底する。
74	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	①防災対策の充実	校下(地区)連絡協議会設置数	年間3校下を目標にH33年度までに36校下での実施を目指す。	増加指標	地区	18	25	30	31	33	32	97.0%	36	32	88.9%	36地区のうち4地区は未結成であり目標には達しなかったが、このうち3地区は全ての単位自治会で防災組織を結成済みであり、実質的には残り1地区のみが未結成となった。	引き続き、古府、太田、西五位、五位山地区に対し連絡協議会の設立促進を図ってまいる。
75	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	①防災対策の充実	わがまち訓練の実施地区数(累計)	H33年度までに36校下で風水害をイメージした防災訓練を実施する。	増加指標	地区	6	10	20	24	31	24	77.4%	36	24	66.7%	令和元年度までは計画に沿って順順に実施できたが、令和2年、3年度はコロナにより実施することができず、目標を達成することができなかった。	計画を見直し、第4次実施計画において引き続き実施する。
76	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	①防災対策の充実	デジタル化に対応した防災行政無線子局設置数	5年間で37子局の設置を目指す。	増加指標	局	87	99	105	118	131	118	90.1%	142	118	83.1%	津波・土砂災害などの突発的な災害の恐れのある沿岸部と山間部への子局設置は完了することができた。 (洪水の恐れのある平野部は、エリアメール・SNSにより発信)	令和6年度に子局の更新時期をむかえることから、今後は既存設備の更新を図ってまいる。
77	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	②消防・救急・救助体制の充実	救命講習会修了者数	毎年1,350人維持を目指す。	維持指標	人/年	1,326	1,586	3,218	3,294	1,350	1,138	84.3%	1,350	1,416	104.9%	平成30年度の実績から講習時間の短い救命入門コースの受講者数を加えたことで、実績値は増加した。しかし、令和2年度からは、新型コロナウイルスの影響により、受講者が受講を控えたり、開催規模の縮小や時間短縮が図られ、実績値が減少したことから、新たな生活様式に応じた救命講習会の必要性を感じた。	これまでのe-ラーニングを更に推進し、オンライン講習を新たに加えるなど、市民ニーズに応じ、専門性を高めつつ受講機会の拡大を図る必要がある。また、短時間での講習会においても、救命率の向上を図るため、AEDの取扱いを含めた心肺蘇生法の講習会を実施する。
78	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	②消防・救急・救助体制の充実	防火防災講習会参加者数	予防事務結果集計等を利用毎年150人の増加を目指す。	増加指標	人/年	1,784 (H25-H27 平均値)	3,563	2,630	2,619	2,250	764	34.0%	2,400	2,611	108.8%	初年度からの3年間は目標値を上回ったが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から目標値を大きく下回った。最終年度の令和3年度は、オンライン講習会を取り入れることで目標値を上回ることができた。	人口が減少するなか、年間2,400人の参加を維持する。 従来型の講習会を基本とし、対面を避けつつ任意の時間・場所で開催できるオンライン講習会を併用することで、それぞれのメリットを活かしながら、より多くの市民に対する普及啓発に取り組む。
79	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	③道路整備、交通安全・防犯対策の充実	交通安全教室の実施回数	小学校下相当数の回数を目指す。	増加指標	回/年	21	23	22	22	25	9	36.0%	26	7	26.9%	令和2年度より新型コロナウイルスの影響で、交通安全教室のキャンセルや中止が多かった。重症化リスクの高い高齢者が参加者の中心となることから、新しい生活様式に沿った教室のありかたが求められる。	感染対策を行った上で、引き続き開催を行っていく。
80	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	④緑化の推進と保全	花いっぱい連盟会員数(個人)	毎年5人の新たな会員を目指す。	増加指標	人	772人	686	652	688	805	613	76.1%	810	570	70.4%	平成29年度から116名減少している。自治会への会員募集を行っているが、令和2、3年度に総会がなかったことが響いている。	イベント時等に積極的に会員募集を案内していく。
81	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	④緑化の推進と保全	花いっぱい連盟会員数(団体)	毎年5団体の新たな会員を目指す。	増加指標	団体	177団体	152	174	169	205	153	74.6%	210	147	70.0%	平成29年度から5団体減少している。自治会への会員募集を行っているが、令和2、3年度に総会がなかったことが響いている。	イベント時等に積極的に会員募集を案内していく。
82	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	④緑化の推進と保全	市街地の緑地率	都市公園及びその他緑地(施設緑地、地域性緑地)の面積÷市街地区域面積及び用途地域面積。	増加指標	%	19.1	18.8	18.8	18.8	19.3	18.8	97.4%	19.4	18.8	96.9%	緑地整備面積が0.33ha増加したが、微増であるため平成29年度から同じ数値に留まった。	引き続き、地域や民間による緑化推進に取り組む。
83	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑤河川・海岸の保全・整備	河川整備率	河川改修率	増加指標	%	86.1	86.3	86.9	87.7	88.0	87.9	99.9%	88.2	88.1	99.9%	目標値は概ね達成できた。今後も国庫補助金を活用し河川整備を進める。 ・令和3年度 施工実績 L=90m	守山川、内古川及び大井川等において改修工事を実施予定。
84	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑥雪対策の充実	民間消雪施設の更新・拡充	耐用年数を超過した43箇所の更新と新規箇所(年1件)の整備を支援する。	増加指標	箇所/年	4	1	6	9	5	7	140.0%	5	9	180.0%	5年間の支援件数が目標値を達成していることから、引き続き支援していく。	令和4年度以降も目標値が達成できるよう、相談の受付や支援を実施していく。
85	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑦上・下水道の整備	上水道管路的耐震化率	上水道管路全体に対する耐震管路の占める割合。	増加指標	%	21.3	22.7	23.4	24.1	24.5	24.8	101.2%	25.1	25.3	100.8%	目標値を達成しており、今後も上下水道ビジョンに基づき、事業を推進する。	[上下水道ビジョン]水道施設整備計画の推進。 ・老朽管布設替整備 ・配水管路整備 ・未普及地域整備

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R1年度 実績値	R2年度 (目標値)	R2年度 実績値	R2年度 達成率	R3年度 (目標値)	R3年度 実績値	R3年度 達成率	平成29年度から令和3年度の5年間の総括 (評価・課題等)	今後の方向性(R4年度以降の取組み内容等)
86	安全・安心	15 安全で快適な生活を 送っている	⑦上・下水道の 整備	下水道普及率	行政区域内人口に対する処理区域内 人口の占める割合。	増加指標	%	93.3	93.9	94.1	94.4	94.5	94.7	100.2%	94.7	94.9	100.2%	高岡市上下水道ビジョンに基づき、計画的な下水道整備を推 進することで目標値を上回ることができた。	すべての市民が衛生的な環境の中で快適な暮らしができるよ う、市の総合的な取り組みの中で、公共下水道整備の推進と 合併処理浄化槽の設置促進により、持続可能な開発目標で あるSDGsのゴールとなる2030年度(令和12年度)までに汚水 処理人口普及率を100%とすることを旨とする。
87	安全・安心	15 安全で快適な生活を 送っている	⑧消費生活の 向上	消費生活に関す る相談件数	本市への電話、訪問、出張相談の合計 件数。 毎年500件の維持を目指す。	維持指標	件/年	530	633	672	589	530	650	122.6%	530	596	112.5%	いずれの年度も基準値を達成している。	令和4年4月からの成年年齢引き下げによる若者の消費者ト ラブル増加の懸念等新たな課題に対応するため、これまで主 に高齢者向けの啓発を行ってきたが、若年者への啓発に力を 入れ、消費生活センターの相談数の維持を目指す。
88	安全・安心	16 その人らしさが尊重さ れ、お互いに助け合いながら 幸せに暮らしている	①市民が主役 の地域づくりへ の支援	市民活動情報 ポータルサイト登 録団体の数	毎年4件ずつの増加を目指す。	増加指標	団体	156	155	153	148	176	153	86.9%	180	151	83.9%	近年、フェイスブックやInstagram、YouTubeといったSNS による情報発信が主流となっており、本ポータルサイトの利用 は停滞している。そのため、閲覧数が伸び悩んでおり、また、 登録団体による情報の更新も活発ではない。	情報発信の主流がSNSに移行していることから、SNSの登録 や利用を望んでいる団体への支援を検討していきたい。また 、動画発信のニーズが高まっていることから、団体での動画 作成の支援も検討していきたい。これらの取組みを進める なかで、本ポータルサイトを継続する必要性についても検討し ていきたい。
89	安全・安心	16 その人らしさが尊重さ れ、お互いに助け合いながら 幸せに暮らしている	①市民が主役 の地域づくりへ の支援	地域コミュニティーセ ンターの利用者数 (各地区の合計)	ホール、会議室、図書館等の利用者数 年間180,000人の利用を目指す。	維持指標	人/年	170,591 (H25-H27の 平均値)	226,491	242,447	211,512	180,000	129,662	72.0%	180,000	148,964	82.8%	令和2年度以降は、新型コロナウイルスの影響により、減少し た。今後は感染症対策を徹底し、コスト面も考慮し事業を継続 する。	市内3カ所のコミュニティセンターにおいて、利用者に身近な 地元関係者が指定管理者となり、施設管理者と担当課のミ ーティングを行いサービスの水準を均一化する。施設条例の範 囲内において可能な限り柔軟に対応することとし、市民に対し 親切・丁寧・きめ細やかな運営を行う。
90	安全・安心	16 その人らしさが尊重さ れ、お互いに助け合いながら 幸せに暮らしている	②多文化共生 社会の推進	通訳・ホームステ イ等のボランティ アの登録者数	本市で登録しているボランティアの数 毎年10人ずつの増加を目指す。	増加指標	人	135	150	168	176	170	96	56.5%	180	99	55.0%	令和2年度に、これまで登録したボランティアの方を対象に登 録更新の意思確認を行ったところ、高齢化等の理由により登 録を解除された方がいたため実績値が減少した。ボランティ ア制度の周知を図るとともに、ボランティア活動の継続につな がる取り組みが必要である。	高岡市多文化共生プラン(第3次)に基づき施策に取り組み、 毎年10人ずつの増加を目指す。また、新型コロナの影響でボ ランティア活動の場が減少していることから、ボランティアの 方を対象にしたスキルアップ研修を実施するなど、ボランティ ア活動の継続につながるモチベーションの向上を図る。
91	安全・安心	16 その人らしさが尊重さ れ、お互いに助け合いながら 幸せに暮らしている	②多文化共生 社会の推進	外国人のための 生活相談コーナー (市役所1階)の利用 者数	在住外国人の生活上の課題を気軽に 相談できる体制づくりを目指し、毎年 2,700人維持を目指す。	維持指標	人/年	2,699	2,419	2,366	2,631	2,700	3,397	125.8%	2,700	3,037	112.5%	令和2年度以降、新型コロナウイルスに関する相談件数が増 加したことにより目標値を大幅に上回った。今後も、外国人の ための相談コーナーの充実が必要である。	新型コロナ感染症などの影響から生活に様々な不安を感じて いる外国人は増え、相談内容は多様化・複雑化し、相談件数 は増加傾向にある。相談の内容を把握し、ニーズに適切に対応 するとともに、本市として少しでも外国籍市民に寄り添い、 安心して生活できるよう「外国人のための生活相談コーナー」 の開設時間や場所を拡充し、継続して多面的に外国籍市民 の生活をサポートしていく。
92	安全・安心	16 その人らしさが尊重さ れ、お互いに助け合いながら 幸せに暮らしている	③男女平等・共 同参画社会の 実現	男女平等・共同参 画に関する講座 等の開催回数	毎年40回の開催を目指す。	増加指標	回/年	34	43	40	38	40	20	50.0%	40	35	87.5%	令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の ため、講座等が開催できないこともあった。令和3年度は、オ ンラインでの開催や会場と併用するなど、感染症対策を取り ながら開催するなどにより微増しているものの、目標値には 達しなかった。	市民ニーズに応じた内容の講座を開催するとともに、講座の 周知や開催方法などにオンラインを活用し、状況に応じて開 催し、開催回数の増加に向けて取り組む。
93	安全・安心	16 その人らしさが尊重さ れ、お互いに助け合いながら 幸せに暮らしている	④平和な地域 社会の形成	人権セミナーの参 加者数	毎年10人ずつの増加を目指す。	増加指標	人/年	352	368	346	315	390	398	102.1%	400	433	108.3%	児童数の減少により、参加者数も減少していたため、R2年度 から開催校を3校から6校に拡大し、増加に転じた。R3年度の 講演会はコロナ禍のため、会場での参加者数を縮小しての開 催となったが、後日録画配信を行い、目標達成に至った。	今後も児童数の減少は続くので、人権教室は6校開催を維持 しつつ、対象学年を増やすなど、参加者数の増加を図る。ま た、講演会については、時勢に即したテーマを設定し、内容 の充実を図り、参加者数の増加を目指す。
94	安全・安心	17 市役所が市民に信頼さ れ、責任を持って取り組んで いる	①市民に開か れた市政の推 進	まちづくりの出前 講座の年間参加 者数	毎年4,000人の参加者数を維持する。	維持指標	人/年	3,904 (H23-H27の 平均値)	4,682	5,947	5,540	4,000	1,220	30.5%	4,000	1,926	48.2%	新型コロナウイルスの感染拡大により、対面での開催が難し くなったことから、令和2、3年度は例年に比べ開催件数や参 加人数が減少したが、オンラインでの開催など非対面形式で も講座を実施するなど、引き続き「まちづくり」について考える 機会を設けるよう努めた。	まちづくり出前講座のメニューを中心に、市政情報の動画化 を行っていく予定。令和4年度は年間10本程度のアップロード を目指す。
95	安全・安心	17 市役所が市民に信頼さ れ、責任を持って取り組んで いる	②高度情報化 の推進	オープンデータの 掲載データ数	機械判読に適した形式のデータ数(第3 段階以上:CSVなど) 毎年5件ずつの掲載を目指す。	増加指標	件	13	13	18	34	35	35	100.0%	40	49	122.5%	目標値を達成しており、今後も事業継続する。 引き続き機械判読可能なデータの増加を目指す。	データの利活用を想定し、PDFによるデータ提供からソフト ウェアを問わないCSV形式へ変換可能なものは対応をしてま らうよう、引き続き各課へ周知する。
96	安全・安心	17 市役所が市民に信頼さ れ、責任を持って取り組んで いる	③簡素で効率 的な財政政の 推進	職員への信頼度	市民意識調査(窓口アンケート)の結果 を利用。	増加指標	%	88 (H28アンケ ー調査結果)	94	88	94	89	95	106.7%	90	91	101.1%	職員に対する信頼度に関して、一定の水準を確保できている。 継続して市民アンケート調査を行うことにより、現状を把握する とともに、引き続き市民職員全体の接遇をはじめとした窓口 (市役所)の向上に努めている。	